

## 中学校・道徳の内容項目の解説

# 人間愛・思いやり

### ●中学校学習指導要領（平成20年3月）

2 主として他の人とのかかわりに関すること	〔一般的な呼称例〕
(2) 温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりの心をもつ。	人間愛・思いやり

### ●解説

全体的な理解	他の人とのかかわりの中で、温かい人間愛の精神を深め、これを身に付けることは人間としてきわめて大切なことである。人間愛の精神は、互いの存在を、強さも弱さも持ち合わせた生身の人間として、丸ごと肯定的に受け止めようとする思いが普遍化されたものである。それは人間を尊重する精神、生命に対する畏敬の念に基づく人間理解を基盤として、他の人に対する思いやりの心を通して具現化される。思いやりの心は、自分が他に能動的に接するときに必要な心の在り方である。すなわち、他の人の立場を尊重しながら、親切にし、いたわり、励ます生き方として現れる。それはまた、黙って温かく見守るといった表に現れない場合もある。したがって、思いやりの心の根底には、人間尊重の精神に基づく人間に対する深い理解と共感がなければならず、このように考えれば、思いやりの心は、単なるあわれみと混同されるべきものではないことが分かる。他者の思いやりに触れ、それを素直に受け止めたとき、人は自ずと感謝の念を抱くようになる。そして、自分が現在あるのは、多くの人々によって支えられてきたからであることを自覚するようになる。
発達的な観点	中学生の時期には、人間愛に基づく他の人とのかかわりをもつことの大切さを理解できるようになってくる。しかし、人間的な交わりの場が急速に少なくなりつつある社会環境と合わせて、温かい人間愛に恵まれないと感じて、人はとかく利己的、自己中心的になりやすく、他を省みない行動に走る場合がある。
指導の着眼点	そこで、指導に当たっては、単に思いやりの大切さに気付かせるだけでなく、根本において自分も他の人も、ともにかけがえのない人間であるということをしっかり自覚できるようにすることが大切である。そのためには、助け合いながら何かを達成していくような機会を多く生かし、互いに支え合う経験を積みながら、思いやりの心と態度がはぐくまれていくよう工夫する必要がある。

文部科学省「中学校学習指導要領解説・道徳編」（平成20年9月）より

### ■参考：小学校学習指導要領（平成20年3月）

2 主として他の人とのかかわりに関すること	〔一般的な呼称例〕	
低学年	(2) 幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。	思いやり・親切
中学年	(2) 相手のことを思いやり、進んで親切にする。	思いやり・親切
高学年	(2) だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする。	思いやり・親切